

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892000072		
法人名	有限会社エイプラスアール		
事業所名	カサブランカグループホーム八木		
所在地	明石市大久保町八木642-6		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成25年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/kaigo/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ		
所在地	明石市朝霧山手町3番3号		
訪問調査日	平成24年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の空間が広くないので目が届きやすく入居者様にとっても、誰かがいる気配を感じることができ安心感を持っていただきやすい。お一人お一人の思いを汲み取るよう1対1の時間を大切にし 散歩や買い物など外出も1対1や少人数での機会を多く設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】①施設はどのフロアも清潔感のある明るい雰囲気である。②地域で安心して「その人らしい暮らし」を実現できるよう、地域との連携を積極的に行い、日々の不安を取り除く工夫をし、個々の要望、急な要望の変化に柔軟に対応している。③職員一丸となって情報共有や自己研鑽の場を設けてサービスの質向上に努めている。
【工夫点】①災害時の備えた地域との連携の強化。②運営推進会議に明石市はじめ関係者の参加を得るよう更なる活動の推進。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を提示し、職員に意識づけている	理念を玄関口や各フロアーに掲示し、毎朝ミーティングの場で唱和するなどして、利用者の今の気持ちを大切にし、職員同士で共有しながらの意識付けがなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。地域のイベント参加したり、地元ボランティアの方に来ていただくなど交流している	自治会に加入し地域のお祭りに参加したり、近所のボランティアの受け入れを行い、散歩に出かけて近隣の方との挨拶が日常にあり、地元的美容院や買い物にも積極的に出かけている。近所の教会への参加も行っている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在のところ、地域の人々に向けて活かす取り組みは行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、利用状況や行事などの報告が主である。	今年は2回の運営推進会議を行っている。市町村の参加はないものの家族に参加いただき、利用状況や行事の報告をしている	今後も、市町村へのアプローチを続けながら、地域の方の参加への取り組みを通して防災訓練などの連携を深めていくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	成年後見制度や権利擁護について相談している	成年後見人制度に権利擁護について相談は、なされている。市町村の積極的な参加がない中で地域の施設との連携をしアプローチされている。	他の施設や地域の団体との連携を今後も続けながら、市町村へさらなるアプローチを続けることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な事例についてミーティングなどで話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングの場で、社会の中で行われていることを事例に挙げ話し合ったり、日頃のケアの仕方について話し合う事を行っている。建物の構造上、施錠させているが、利用者の要望に応じた外出などの対応がされている	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払ひ、防止に努めている	虐待防止に努めている。家族様との関係性についても、見過ごされることがないように注意を払うとともに、気になったケースについては包括支援センター等に相談するようにしている。	虐待防止について日頃より職員から意見を聞く体制があり、話し合いを通して虐待防止に努めている。家族との関係も築き見過ごされないように職員からも聞き、気になるケースについては包括支援センターへ相談を積極的に行い関係を築いている。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある利用者様には活用できるよう、市町村に相談、助言をもらうなどしながら支援している。	実績としては事例が少ないものの、必要性のあるケースについては市町村に相談や助言を迅速にもらい支援につなげている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にそって説明を行っている。施設側でできること、家族様にお願いすることを明確にまた料金についても十分に説明を行うようにしている	利用者の視点から分かりやすいパンフレットと重要事項説明書にそって、出来ること・出来ないことの説明を細やかに説明し、料金についても分かりやすい表示工夫がなされている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情、要望、は口頭(送迎時)、電話で寄せられることが多い。お聞きした内容については、ミーティングで共有し反映するようにしている	意見箱の設置はしているものの、直接電話や送迎時に寄せられている。迅速にミーティング等で情報共有を積極的に問題解決に努め、個々のケースに対応をしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に意見や提案は、ミーティングなどで出してもらい、話し合う機会を設け反映させている。	各部門においての話し合いの中で現場の意見を吸い上げ会議の中で修正や改善が行われており、管理者が積極的に昼休みや時間を作り現場の相談に細かく対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々との面接、相談の機会を設け、努力を認めたり、悩みが出せるようにしている。向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や外部の研修に積極的に参加するよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	明石介護サービス事業者連絡会に参加し交流を図っている。他事業所の運営推進会議に参加させていただき、意見交換をしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望に耳を傾け、ゆっくりと話をする機会をもつようにしている。環境の変化に配慮し、安心が確保できるように努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至った経緯、家族様の思いに耳を傾け、信頼関係が築けるよう努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要なかを見極め、他のサービス利用についても視野に入れた対応をするよう努めている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力が活かせる機会をつくり、人生の先輩として、知恵をお借りするなどの関係を築いている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしよう心がけている。施設での様子や本人の気持ちを家族に伝え、共に支えられるよう努めている。様子をお伝えするお手紙を毎月出している。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出を通して、これまでのなじみの関係が途切れないように努めている。	個々の利用者の馴染みの場所や人の把握をし、自宅にいても一緒に美容院や囲碁教室へ同行したり、お友達との約束のフォローを行うなど積極的に取り組み、地域での高齢者が集まる場所マップ等を作成し、馴染みの関係場所の把握を行っている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合えるよう支援している。また、トラブルがおきないよう関係を把握し、調整に努めている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談や近況報告を受けたりしている。必要があれば、関係機関に働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの重いが汲み取られるよう、一対一で関わる時間を大切にしている。得た情報は個別記録に記入し、ミーティングでも共有するようにしている。	1対1で関わる時間を大切にしその中で本人の希望を聞きだすように努めている。意見は個人ファイルで管理し職員同士共有に努めている。要望に応じて外食や欲しい物の買い物に積極的に出かけている。季節の行事や誕生日会を開催し、そのときの表情なども記録に残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、馴染みの知人等から得た情報を共有し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活状況、精神状態の把握に努め、ケアに取り組んでいる。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いを大切に、スタッフと話し合いながら、介護計画を作成している。	センター方式の書式を用いて家族に話を聞いたり、どのような生活を営んできたのか把握し職員で共有する中で、カンファレンスなどで積極的に意見交換しアイデアを出し合いながら計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアを個別記録に記入し、情報の把握、共有に努め、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の小規模機能やデイサービスとの交流を持ち、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方に野菜つくりのアドバイスを頂き、施設内の畑での作業に活かしている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には提携医の定期訪問診療を利用いただいているが、希望があれば、他医の受診に同行している。		
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師による健康チェックやアドバイスを受けている。施設兼務の看護職員の協力も得、適切な受診や看護が受けられるようにしている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者との情報交換をし、退院後の生活についても相談するように努めている。		
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医と相談しながら支援している。施設の看取りの指針に沿って話し合っている。		
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルにそった対応をしている。研修会や訓練を実施し、実践力が身に着くよう努めている。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。地域との協力体制については課題として検討中。	災害訓練は計画を立てて実施している。ハード面での不都合があり本当に災害が起こったときに職員のみ誘導で大丈夫であるかの不安の課題は認識できている。	もしもの災害時に備え、地域の援助も欠かせないことの認識があるので地域での消防訓練やその他の関わりを通して地域住民への協力体制が整えられるようなアプローチを期待しています。

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいや対応等、人生の先輩として接するよう心掛けている。プライバシーが確保できるよう配慮している。	生活を共にする家族として話しやすい雰囲気 をそれぞれの職員が持ちながら一人一人の プライドを傷つけない言葉遣いや対応がなさ れている。日常の中で職員同士も気をつけな がらミーティングの場で振り返りの話し合いも 行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	代弁が職員の思いとならぬよう本人の言葉をゆっくり聞くように心がけている。何もないところからの表現は難しいので、選択肢を示して選んでいただくように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気持ちに合わせて調整するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「似合っている」とか「素敵ないですね」等、積極的に声をかけ、本人の身だしなみへの関心が保てるよう働きかけている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や片付けを一緒にしている。食材や調理法について話題にし、食への感心や楽しみを増やすよう働きかけている。月に数回は昼食やおやつを一緒に手作りしている。	落ち着いた雰囲気の中で食事を楽しまれている。お米は地元の農家から購入し地域とのつながりも大切にしている。温かいものはその場で一緒に調理したり配下膳も利用者のA DLに応じて一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の把握をし、体調や希望に応じて時間をずらしたり、間食で調整するよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に応じた口腔ケアを促している。就寝時には義歯の洗浄、消毒をしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の習慣、パターンを把握し、トイレ誘導等、その人に合った支援を行っている。おむつはずしに取り組んでいるケースがある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や身体を動かすよう働きかけている。自然排便が困難な場合には、医師と相談しながら下剤を服用して頂いている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決まった日時のほうが理解されやすいので入浴日をもうけ全員が入っている(当日は職員を多く配置)	以前は時間帯や曜日を固定せずに入浴を行っていたが、決まった曜日を設けたことで利用者自身が曜日の感覚や時間の感覚を取り戻し混乱が少なくなり、自分で用意ができるなどの利点から固定曜日で行い職員配置をその日は多くする等対応して全員の入浴と個々に応じた入浴がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその日の体調にあわせ休息をとっていただいているが、日中はできるだけ起きておくよう働きかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ずつの服薬リストを作成している。処方通り正しく服薬できるよう支援している。変化が見られた時には医師に連絡相談し、対応するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意分野が活かせるよう見守りの中、積極的に頼みごとをしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	融通が利くよう一対一や少数での外出機会を多く設けるよう努めている。家族との外出も積極的にしていただいている。	日頃の会話の中から希望に応じて大勢で外出したり、一人一人個別対応し外出を積極的に行っている。更に個別対応の中で得られた情報を元に共有し遠方や思ったときに自分の家に帰宅できる機会を増やしていきたいとの職員の思いも感じられる。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はトラブル回避のため手元には置かず、事務所預かれとさせていただいている。買い物時には可能な方には本人に手渡し支払いもできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事情により、電話がかけられない方もいるので、時間帯や使う電話の設置場所を考慮しながら、できるだけ希望に添えるように支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こまめな換気を心がけている。季節に合った壁飾りを一緒に作成している。食堂兼今の狭い空間であるため、生活時間がズレてしまう方がある場合には個々の居室を使用するなど配慮している。	共有空間は明るい雰囲気でも景色も良く落ち着いた空間があり、トイレには利用者が分かりやすく目につきやすい表示がされている。掃除なども行き届いており清潔感を感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物内の他階や庭を利用し、思い思いに過ごせるように働きかけている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、落ち着いたものを持ち込んでいただいている。整理等お手伝いさせていただくが、本人の意見を尊重するようにしている	居室には自分の馴染みの物を持ち込み、それぞれの個性を取り入れた空間作りが行われている。自分で作成した作品などを粗末に扱わず綺麗にディスプレイするなど個々の個性が配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」が継続して行えるよう利用者、スタッフの意見を取り入れ、改善、工夫を加えながら環境づくりに取り組んでいる。		